

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容、事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム恵の里
（ユニット名）	A 棟
所在地 （県・市町村名）	秋田県潟上市
記入者名 （管理者）	福田 すゑ子
記入日	平成20年11月5日

(様式1)

自己評価票 A棟

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員一同で事業所独自の理念を話し合い作成した	○ 地域密着事業所への移行により理念の見直しが必要か(思案中)
2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室、廊下に掲示し毎朝日常的に唱和し体感できるように日々努力している	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事務室、廊下に掲示し運営推進会議の開催時に理念の説明をし、またホーム便りにも理念を毎回掲載している	ホーム便り『ローバー』発行
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に挨拶を行っている また『ノロウイルス対策講座や、消火訓練』などにも参加して頂いている	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	また老人会など演芸、清掃ボランティア、中学生の職場体験などの受け入れを行っている 散歩しながらゴミ拾いや児童公園の草刈りなどを行っている	○ 10月20日より24日まで天王中学生の職場体験を実施した

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で地域の高齢者に対して役立つ事はないか話し合い情報提供をお願いしているが現時点での対象となる方がいない	○	以前、高齢者より支援の要請があり対応した事はあるが今は施設入所中、今後も要請があれば協力していきたい
3.理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価についてはカンファレンスの場において話し合い具体的な指摘があれば実行していくように努力している	○	建物の構造上実施出来ない事もある
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いを行っている 話し合いでの意見を参考にしサービスの向上に生かしている 会議で地域のみなさまに現状説明、情報の提供を行っている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームで解決出来ない事や解らない事はそれぞれの市町村の担当者に相談している		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護については市の担当者に相談している、(生活保護者に付いては特に)	○	福祉事務所と頻繁に話し合っている
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については学習する機会をもうけ、また気になる言葉の掛け方にもその都度注意を促している	○	潟上市より虐待防止マニュアルの配布あり担当者に推進会議の席で説明を受けた

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時、詳細に説明し納得頂いた上で入所してもらいその後もご家族も安心出来るように努力している</p>	○	<p>契約書、重要事項やその他の取り決めについて説明、同意書を取り交わす</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理の指針を作成して、それに基づき受け付け窓口を明確にし対処している また個々の担当者が悩み事や苦情を受け入れ気安く相談できる様にしている</p>	○	<p>第三者の苦情受け付け先を文章かして玄関、廊下に掲示し広報誌にも案内している</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や緊急性が高い時には電話や来所して頂き近況を報告してまたホーム全体についてのお知らせや活動に付いてはホーム便りを活用している</p>		<p>預かり金については個々に管理帳を作り毎月コピーと領収書を添付、送付して面会時に管理帳を確認の上、押印またはサインを頂いている</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時の説明やホーム便りを活用し第三者の苦情を受け付ける機関が有ることを説明している</p>	○	<p>国保連合会など</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンスや申し送りの場を利用し職員と共に話し合い反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の骨折の際に夜勤者を1名から2名体制を取ったり、午後から不穏となる利用者が多いので日勤を出来るだけ2名体制を取るなど話し合いをしその状況に応じている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は開所5年目で初めて行ったが大異動ではなく、各棟1名ずつの交替で利用者の不安感を少なくするために、離職者についても休みを取っている等と話し気をまぎらわす</p>		
5.人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の習熟の段階に合わせ研修を受けてもらっているまた、職員自身も進んで介護福祉士等の資格試験を受験しそのための講習会への参加をバックアップしてる</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流を行っている勉強会の実施や助言を頂いている</p>	○	<p>20年10月15日に男鹿、潟上、南秋田GH連絡会の設立をおこない、今後の活躍に期待している</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフルームが有り交替で休憩を取れるようにしている 勤務についても希望を取り入れ休日を取りやすいように配慮している</p>	○	<p>家庭の事情により夜勤、早番、遅番など配慮した勤務体制にしている</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格の取得や勤務状況に合わせ主任、計画作成などホームの運営や責任を持たせ向上を図っている</p>	○	<p>任務遂行のために分野に応じた資格研修に参加させている</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に事前調査にて本人及び家族から生活歴などを把握しホームでの生活に生かせるように努めている</p> <p>一部センター方式を取り入れている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族への聞き取りが大変大事で家族の思いを十分に聞き取り家族の不安を少しでも取り除く様に努めている</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族の希望を十分聞き入れ希望が叶うように努力している</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者様の性格、生活歴を把握し徐々に馴染める様努めている</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の状態に合わせて一緒に料理や洗濯等を行い「お願いする」頼りにしているという立場を取っている、また利用者「盆踊りの唄」など歌って頂く、職員も一緒に楽しんだりしている</p>	<p>一日市盆踊りなど</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>一緒に外出して頂いたり誕生会など一緒に祝って頂いたり食事会を設け楽しんでいる</p>	
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>利用者の状態に合わせて家族と一緒に外出や外泊、面会時には居室でお茶や食事をして過ごす事が出来るようにしている また必要に応じて面会をお願いしている</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の訴えに応じて、墓参りや居室での供養の支援、馴染みの理容、美容室、商店へ外出支援なども行っている</p>	<p>○</p> <p>知人の方が面会に来られても気楽に一緒に過ごせる様に支援している</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者様たちが一緒に談笑したり、レクリエーションを通して一体感を持ち共に楽しく過ごせる場を提供している</p>	<p>○</p> <p>輪投げ、ペットボトル ボーリング、カルタ取り 塗り絵など</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>必要に応じて情報交換したり面会に行ったりしている</p>	<p>○</p> <p>入院の時付き添いなどの支援も行っている</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段から話をよく聞くように心がけそこから思っている事、感じている事の把握を行っている</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族から今までの暮らしや生活状況を聞き取り文書での把握を行っている</p>	<p>○</p> <p>センター方式をもっと取り入れたい</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>担当者を決めてアセスメントを行っている また毎日の申し送りで個々の状況を報告し継続的に見守っている、状態変化がある場合は随時観察、必要に応じてカンファレンスで報告今後のケアについて検討している</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人または家族から意見や希望を伺い介護計画を作成している</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態変化がある場合は期間に間らわれずアセスメントを行い計画の見直しを行っている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、気づき等個別記録に記入している記録を元に複数の職員でアセスメントを行い介護計画の見直しに生かしている		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様ご家族の希望とする事がホームで出来る事であれば支援していく また行きたいと思う		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通し努力している医療機関ともDr主治医との連絡を密にしながら支援している	○	運営推進会議のメンバーに各方面の方をお願いしている
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	相談があれば積極的に支援を行う	○	地域の皆様に、より以上に理解頂くように努力している
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて包括支援センターに相談に行き協力を得ている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望がある場合にはかかりつけの医療機関への受診を行っている。かかりつけ医がない場合は本人家族の同意を得てホームDrより訪問診療を受けている	
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科のDrに相談や助言を頂いている 必要に応じて受診を行う	
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回の健康管理を看護師により行い健康管理や日常の健康状態について相談し助言を頂き緊急時には24時間対応している	○ ホームの看護師として登録
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時病院関係者から説明を受け情報交換をしその家族にあった状況作りに心掛けている	
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常日頃から本人の健康状態について家族へ報告を行い重度化、終末期についてホームDrの意見を交え家族の意見を尊重し話し合いを行っている	○ 終末期、看取りについては医療連携体制に関する指針を作成しこれに基づき対応している
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームDr、看護師から助言を頂きながら重度化、終末期にむけ話し合い看取りを行った。また今後に備えて検討を行っている	○ 20年1月に家族の希望により看取りを実施した

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>延命や終末期における医療的処置を家族が希望し状態によっては家族、医療機関または他施設関係者間を含めて話し合い情報交換を行い退所の支援もある</p>	○	医療行為の出来るところへ
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄など個人に関係することは個々に確認する様にしている</p> <p>記録に関して情報公開が必要なときは本人及び家族の同意を得てる</p> <p>広報誌等に顔写真掲載するときには同意を得る</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>理念にもある様に、自己決定の支援をし買い物や理髪店、美容室、四季折々のドライブ会食等の支援を行っている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>リハビリを兼ねたレクリエーション等も利用者様の希望を取り入れ、散歩なども強制はしないで個人の時間を大切にしている</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>気候の変化に応じた服装に心がけ、時々お化粧をしたり整髪にも気配りをし、なるべく希望に添った床屋、美容室へ行ける様に支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みに合わせ肉魚等代替えをしている 食事作りや後かたづけまで支援しながら一緒に行っている		糖尿病やアレルギー及び薬の副作用に気をつけた食事の提供をしている
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物デーを設け本人の好みの品を買っている (職員の同行あり) 買い物を楽しみにされている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	おむつ使用者はなし、リハパン常時使用者については可能な限り見守り誘導をしている 一部の人にはプライバシーに気をつけながら介護援助している		排泄の記録を取りその人の排泄パターンを把握しその人にあわせた誘導に心がけている
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日には入居者全員のバイタルチェックを実施時々入浴順番を変える等変化を持たせている 状態に応じてシャワー浴に替えて対応する		入浴日以外でも希望者には随時対応する
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各居室に於いての休息が取れるように配慮し心がけている また訴えの出来ない人入居者は必要に応じて居室誘導、見守りをしている		夜間徘徊の時は会話、飲み物などを摂りながら様子を見て安眠できる様に支援している
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブ、四季それぞれに花観賞会、食事会、散歩趣味の裁縫編み物などその人にあった社会との関わりを持ち気分転換をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	出来るだけ本人管理をお願いしたいが金銭管理 は出来ない人が殆どなのでホームで管理もおこ なっている 銀行、買い物に同行し領収書はホームで管理して いる		外出の際には、こずかい程度のお金お所持させ 自由に買い物が出来るようにしている
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	体調、本人の意思確認、天候を見ながら散歩、 日光浴などをしている		図書館、博物館など見学希望者に支援して る
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	四季を感じる事が出来る様に花見、梨、ぶどう 狩りなどの支援をしている		家族との外泊、食事など出来だけ声かけ支援し ている
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	手紙の代筆支援や電話はいつでも希望があれば 何時でも自由に使用して頂く		家族に対しては電話などで連絡要請している
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	訪問者には職員等が出迎えし 入居者様の希望に応じて居室またはホールでお茶 など出して談笑して頂く		面会が遠のいて居る家族には電話などでその旨 お願いしている
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	研修受講及び身体拘束マニュアルの活用を職員 全員で共有し実践している		拘束が必要な時には本人及び家族の了解、同意書 を取り交わし行っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	保安上、夜間のみ玄関には施錠している 一人だけ自らの希望にて内鍵（カギフック）を取り付けている		巡視時、緊急時には廊下側よりジョウギなどで簡単に解錠できるようにしてある
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の訪室はロック声かけしてから入室をしている、夜間の巡視は定期的に行い様子を見るだけで必要以外は入室を控える		体調不良の利用者に対しては随時気配りをしている
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室に於いて針、ハサミ等の使用後職員により安全確認をしている 一人ナイフを所持して果物を食べるために洗剤、薬剤等は管理保管してる		火気に関しては居室での仕様は原則禁止 薬剤は事務所に管理
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止のために歩行器、シルバーカーを使用 食事の誤嚥の恐れのある利用者には職員が必ず付き添う服薬については職員間で声かけあって確認する 口腔体操を毎日、午前午後行い嚥下強化に努めている		火災については71番に準じる
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	救急救命講習を受講しマニュアルを共有している		救急救命講習を消防署に相談予定している
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員の指導の下訓練を行い日頃から心がけている 運営推進会議または町内会総会などでお願いしている		今後の訓練の時に地域の方々に協力を得て行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時、またその都度変化に応じて対応し、ケアプランの説明時に対応を話し合っている		なるべく面会をして頂くために利用料の支払いを振り込みにしないで面会かたがたお願いしてる
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックによる健康チェック申し送りに依り状態観察での状態把握し職員間の情報の共有と 対応を行っている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録簿に処方目的や用法等がファイルされており、変更についても随時申し送りし職員全員で共有支援している		変化に応じて主治医に確認しながら対応してる
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行っており、運動や飲食にも随時対応している(ヨーグルト)摂取など		水分チェックを需要視している
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝夕の口腔ケアの徹底と見守り一部介助にて行っている		毎週、火曜日にポリドントによる入れ歯洗浄を行っている
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表で確認し おかゆ、きざみ食また好みの物を提供し水分摂取についても飲み物を換えて対応している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルにそって通年にわたり、酢、ハイターの活用に取り組んでいる 11月よりノロウイルス対策強化、感染予防に取り組んでいる		保健所の感染症対策出前講座を毎年、全職員が受講し実践している(地域の方にも声かけ受講)
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	肉、魚は毎日配達、なるべくまとめ買いをさせ、買い物係を配置している 調理器具は熱湯、ハイター消毒を行っている		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の解放、何時でも自由に入出入り出来るようにしバリアフリーを心がけている 親しみやすく季節の花などを飾る		玄関にセンサー設置
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開けるなど換気に配慮、換気扇の活用 汚物入れ専用の容器を使用、ポータブルトイレ使用者の居室に於いては消臭剤の設置を行っている		ポイ捨て容器
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには立ち上がりに考慮し個人向けに椅子を配置しソファの高さの調整、戸外にベンチを設置している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた家具、椅子または写 真などを持ち込んで頂き居心地良く暮らせる様に 支援している		仏様に供物を毎日お供えなど(ご飯、果物)
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	こまめに窓の開け閉めを行い換気に気配り、全 館床暖なので心地よい温度の中での生活を可能に してる夏場はクーラーによる温度の下げすぎに注 意する様に心がけている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	全館バリアフリーで廊下、トイレなどには手摺 りを配置し安全に考慮している		必要に応じてフットコールマットを使用
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室入り口に表札または絵を配置し椅子などに シールを貼り各人に合わせた工夫をする		椅子の改造など(キャスター、肘掛け取り付け 車椅子用のオーバーテーブルなど)
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	菜園がホームの窓から見える所にあり花や野菜 が育つ様子がわかる様にしている、ベンチも設置 している		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

(様式 1)

.サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 自己の要望確認困難
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 す る 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームには菜園、花壇があり季節ごとに収穫し味わったり、利用者様の生活機能を生かし花を生けてもらい日々楽しんで頂いている。家族や地域の人達が気軽に足を運んでもらえるホームを目指しています。ご家族や利用者様の希望をかなえられるように支援努力している。環境的にも静かな住宅街に位置し近くにはスーパーや温泉施設(くらら)道の駅天王、グリーンランドなどがあり居心地よく生活できる様に支援出来るように努めています。また、常勤の栄養士、准看護師による栄養管理健康状況の確認、訪問看護、訪問診療により健康管理に努め看取りまで協議の上で相談に応じている。